

1 現状と課題

現状

- 兼業農家の割合が高い。
- 農業従事者の高齢化。
- 畑の割合が多い。
- 露地野菜、果樹類を販売している農家が多い。
- 果樹経営は「くり」が多い。

課題

- 農地の保全・活用  
農地の流動化・集積の促進を進める必要がある。
- 担い手の確保・育成  
農業後継者や新規就農者への支援が求められる。
- 営農意欲の維持・喚起  
新たな販路開拓、基盤整備、鳥獣害対策により、担い手の営農意欲を維持する必要がある。
- 6次産業化の推進  
農畜産物の付加価値を高めていく必要がある。
- 直売ネットワークの形成  
農家の収益拡大を図ることが求められる。
- 市民との交流促進  
「人・もの・情報」の行き来を活発にすることにより地域の魅力を発信していく必要がある。
- 地産地消の促進  
生産と消費を結び付け、「顔が見え、話ができる」関係づくりを行うことにより生産者の収益拡大が求められる。

2 課題を解決するための施策

○ 地区共通

課題	施策	施策の内容	目標
・農地の保全・活用 ・担い手の確保・育成 ・営農意欲の維持	担い手への農地集積・集約	・稲作における担い手への集約を図る農地を対象に、畦畔除去等による区画拡大や暗渠排水、水路等の整備、老朽施設の更新等を地域の実情に応じて実施する。	長期
・農地の保全・活用 ・担い手の確保・育成 ・営農意欲の維持 ・6次産業化の推進	田畑転換等による収益拡大	・転作による大豆等の作付けを推進する。 ・転作した作物の生産性を向上させることにより収益の増加を図る。 ・地区での協議により、「葉にんにく」等の鳥獣被害を受けにくい地域の特産となる栽培作物や6次産業化による高収益化について検討する。 ・地区で統一的に栽培した農作物を学校給食等へ提供することにより、知名度の向上と収益拡大を図る。	短期
・営農意欲の維持	鳥獣被害防止	・野生鳥獣の「追い払い」やニホンザルの「追い上げ」、箱ワナの貸出等により、農業被害の減少に努める。 ・「広域獣害防護柵」の定期的な整備等を実施し、適正な機能保全を図る。 ・「個人防護柵設置費用」の一部を補助することにより、農作物被害の軽減に反映させる。	短期
・直売ネットワークの形成 ・市民との交流促進 ・地産地消の促進	体験農園	・市街地からの来訪者にレクリエーションを兼ねた農業体験の場を提供する。 ・農業体験により、地産地消について考えてもらうことで、近隣の農家が行う直売等の利用促進につなげる。	中期
・担い手の確保・育成	後継者等向け勉強会等の開催	・農業者、JAあつぎ、行政が連携し、地区の農業後継候補者等を対象に農業に関する勉強会、農業体験活動等の支援を実施する。 ・後継者候補者に消費地に近い本市の営農上の環境等を説明し、営農意欲を喚起する。	短期
・農地の保全・活用 ・担い手の確保・育成	都市農業支援センターの活用	・JAあつぎ、市農業委員会、市が連携して農業に関する相談・支援を行うことにより、新規就農者の確保等、営農継続へ向けた取組を効率的、効果的に展開する。	短期

○ 飯山地区

課題	施策	施策の内容	目標
・農地の保全・活用 ・担い手の確保・育成 ・営農意欲の維持	農地・農業用機械の集約	・営農集団を組織・維持しやすい環境を支援し、農地・農業用機械の集約による営農コストの削減を図る。	中期

○ 古沢地区

課題	施策	施策の内容	目標
・農地の保全・活用 ・担い手の確保・育成 ・営農意欲の維持	小規模農地の活用	・小規模農地が多い同地区において、営農を希望する就農者に向け、遊休農地や耕作放棄地の活用、農地整備のための支援を行う。	中期

※短期目標：概ね3年、中期目標：概ね5年、長期目標：概ね10年

※農業者や市、JAあつぎ、関係団体、市民、都市農業支援センターなどの各主体が役割分担、協働して各事業を推進する。